

このことにより、観測の原始データのファイリングの問題も簡単に解決するであろう。

さらに、計算機の高い能力を利用して、人間では現実的にできないような複雑な観測手続きを実行することもできる。

それは、多数の観測機器の同時制御や、多数の測定点のデータの一括処理、また、人工衛星のように複雑な動きをする天体の追尾などである。

今後、この面での計算機利用をさらに発展させるために、観測機器の運転やデータの読み取りのための特別なエンコーダーやアクチュエーターの開発が必要となるであろう。

6. 人材の養成と研究体制

位置天文学とそれに関連する分野の今後の発展を進めるための、人材の養成と最も機能的な研究体制の検討もきわめて重要な課題である。

a) 人材の養成

すべての学問と同じく、天文学もその目ざましい発展により、その最前線をますます幅広いものとしている。その結果、各先端分野にたずさわる研究者の密度が小さくなるのは、世界的に避けられない傾向である。とくに、長期にわたる観測の比重が大きく、国際協力を必要とする位置天文学の分野では、地道に研究に取り組む優秀な人材の養成が急務である。このため、大学において、所要の講座の拡充をはかる必要があり、また位置天文学に

関連した講義時間の充実が必要である。

また、大学外においても、位置天文学の主導的テーマを取り上げて、広く討論の場を提供し、関心のある人材を集めることが有効であろう。さらに、各研究機関相互に講師を交換し、位置天文学に志す人達の関心に応え、レベルアップの努力が必要である。

さらに、各研究機関は、位置天文学という長期の観測成果に基づく研究の特質から、若い人材に落着いて研究できる場を確保拡充しなければならない。

b) 研究体制

本委員会は、研究体制の問題について、かなりの時間をかけて討議してきた。

すなわち、巨大化する観測機械、新しい観測事業が位置天文学に欠かせないものとなり、たがいに情報を交換し、緊密な連絡のもとで研究を進める必要性が急速に増加するであろう。

そのようなときに、どのような研究体制が最も有効で位置天文学の進歩に役立つかを、さらに時間をかけて討論を続ける必要がある。

最近の情報科学の進展は、諸外国とのデータの交換を容易にし、研究に必要な資料の収集が迅速に行なえるようになった。位置天文学では、とくに諸外国のデータの収集や交換が重要であるが、このためのデータセンターの設立も、研究体制の一環として考えなければならない。

正 誤 表 (9月号, p. 224)

(天文学の歴史的展開に対する一考察)

頁	行	誤	正
224	脚注	Frankfhrt	Fcankfurt
"	右, 24	従属理論	惑星理論
"	右, 25	の惑星に	従属変数
"	右, 26	離心率誤差変数	離心率の誤差に
"	右, 下より5	系統誤差	系統的誤差
"	右, 下より2	地球軌通	地球軌道
225	左, 13	Vistat	Vistas
"	左, 下より14	Brace	Brache
"	左, 下より1	$\dots r \cot a + r' h = a \dots$	$r \cot a - r' h = a$
226	左, 6	A, B, C 慢	慢の字行末へ移す。
"	左, 18	bolphinae はの Tycho	dolphinae は Tycho の
"	右, 10	発生,	発生し,
"	右, 10	態形	形態
"	右, 12	Copesnicus	Copernicus
223	右, 下より3	Corpenicus	Copernicus